

アピール

## 「えひめ丸」事件をくり返させないために（案）

教職員ならびに国民のみなさん。

私たちは、「えひめ丸」事件を二度とくり返させないという思いをこめて、事件後一年のこの日、全国からここ愛媛県に集いました。

一年前の二〇〇一年二月十日、宇和島水産高校の実習船「えひめ丸」がハワイ沖で米海軍の原子力潜水艦「グリーンビル」によって沈没させられ、実習中の高校生四名をはじめ船員・教職員あわせて九名もの尊い命がうばわれました。事件後一年たった今日もお、一名の遺体は不明のままであり、多くの生徒・船員がPTSD（心的外障後ストレス障害）に悩んでいます。「えひめ丸」事件は乗船実習中すなわち授業中の事故であり、教育のさなかに多数の生徒・教職員が死傷するという教育史上かつてない大事件です。また、この事件とその後の経過は、海の平和と安全を守る課題から水産高校の乗船実習のあり方まで、多くの問題を明らかにしました。さらに、愛媛県特有の問題として船員の雇用形態の問題も指摘されています。

ところが、米海軍をはじめ日米両政府・愛媛県当局は事件の真相を解明せず、再発防止や乗船実習の改善にとりくもうとしないばかりか、事件一年を機に幕引きをはかろうとしています。私たちは、この事件の真相を明らかにして、これら諸問題を解明・解決し、平和で安全な海と真に教育的な乗船実習を実現することが多くの犠牲者に報いる道であると信じます。

今回の事故は訓練海域でもなく警報も出ていない通常海域を航行している「えひめ丸」に、突然、海中から原子力潜水艦が激突して沈没させたものです。しかも、「体験航海」で民間人に操縦させ、ソナー等による安全確認を怠っていた可能性の大きい「重大な過失」です。二十一年前の日昇丸事件の教訓も生かさず、海の安全を脅かす米海軍の横暴な振る舞いはただされなければなりません。今回のような事故を二度とくりかえさせないために、日本政府が「事件の真相と責任を明らかにし、『重大な過失』を認める必要な補償を行うこと」「米海軍潜水艦の航行・演習に際しては、海の安全確保に全力を注ぐこと」をアメリカ政府に要求するよう求めましょう。

また、今回の事件を契機に、水産高校の乗船実習について検討が加えられてきました。その中で、乗船実習が漁獲優先になっているという問題が指摘されています。実習で獲ったマグロの売り上げを県収入に見込み奨励するという漁獲優先の発想でゆがめられている乗船実習のあり方をただして、本来の目的である教育を優先した乗船実習に転換する必要があるのではないのでしょうか。漁獲高が翌年の予算に連動する「実習会計制度」を廃止もしくは抜本的に改めることをはじめ、実習船が実習生および乗組員が安全で衛生的な船内生活をおくることができるようになっていくかどうか、年間運航計画が乗船実習中の事故防止及び指導の充実のために無理のないものになっているかどうかなど、根本的な見直しと必要な改善を求めていきましょう。

教職員ならびに国民のみなさん。

平和で安全な海をとり返し、真に教育的な乗船実習を実現するために、ともにとりくみましょう。

二〇〇二年二月九日

全国水産高校教職員のつどい